

子どもの習い事・塾 に関する実態調査

2025年12月トレンドレポート



キッズ・マネー・スクール
Kid's Money School

キッズマネースクールは一般社団法人日本こどもの生き生き力育成協会が運営しています

調査目的

子どもの金銭教育を推進する「キッズ・マネースクールごえん校（運営 GOEN株式会社）」は、子育て世代の家計における教育費の実態と意識を把握するため、0歳から12歳のお子さまを持つ保護者を対象に、2025年12月に匿名アンケート調査を実施しました。

日本では、少子化が進む一方で、子ども一人あたりにかける教育費は増加傾向にあると言われています。本調査においても、習い事を選ぶ際に多くの保護者が「費用の負担」以上に「お子さま自身の興味や希望」を重視していることが明らかになりました。

しかし一方で、理想とする教育環境を整え、長く支え続けるためには、現実的な「備え」が必要になることも事実です。昨今の物価上昇や社会保険料の負担増などにより、家計を取り巻く環境は厳しさを増しており、将来の教育資金確保に対する不安の声も多く聞かれます。

実際に、教育費準備の不安要素としては「物価や学費が上がり、将来、目標額では足りなくなってしまうこと」を挙げる保護者が最も多く、次いで「突然の病気や失業などで収入が途絶えること」への懸念が続きました。このように、多くのご家庭で、変動する経済状況下での資金計画に課題を感じている現状が浮き彫りとなりました。

本レポートでは、現代の子どもたちの習い事・通塾の開始時期や費用感、そして保護者がどのように家計と教育費のバランスを取ろうとしているのか、その実態をまとめました。この調査結果が、各ご家庭で「お金」について考えるきっかけとなり、安心して子どもの未来を育める社会の一助となることを願っています。

調査概要

1. 調査の目的

- ・子どもの習い事・学習塾にかかる費用の実態と、開始時期などのトレンドを明らかにすること
- ・教育費準備における保護者の意識、不安要素、および具体的な準備方法の現状を把握すること

2. 調査の実施状況

- ・調査地域：17都道府県（回答者の居住地ベース）
- ・調査対象：0歳から12歳までの子どもを持つ保護者112名（子ども総数200名）
- ・調査方法：キッズ・マネー・スクールごえん校のLINE登録者に対するアンケート調査
- ・回収期間：2025年12月16日～2025年12月31日

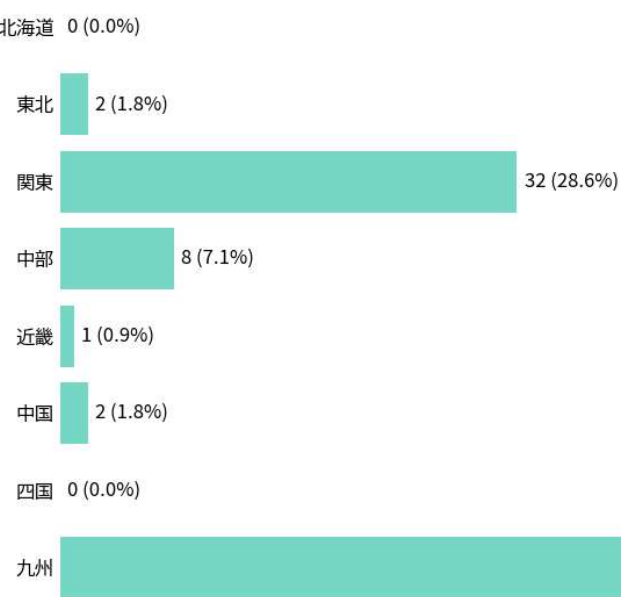
3. 報告書作成にあたっての留意点

- ・本調査の結果は、アンケート回答時点での実態および意識を示したものです。

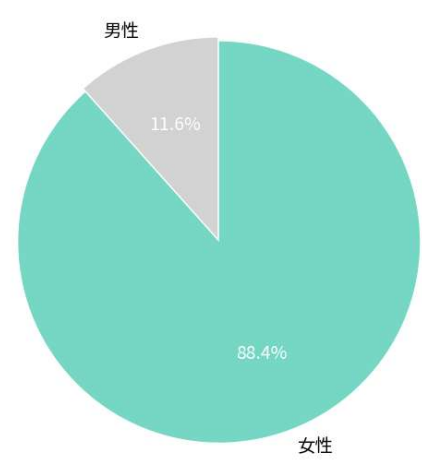


回答者属性

1. 居住地

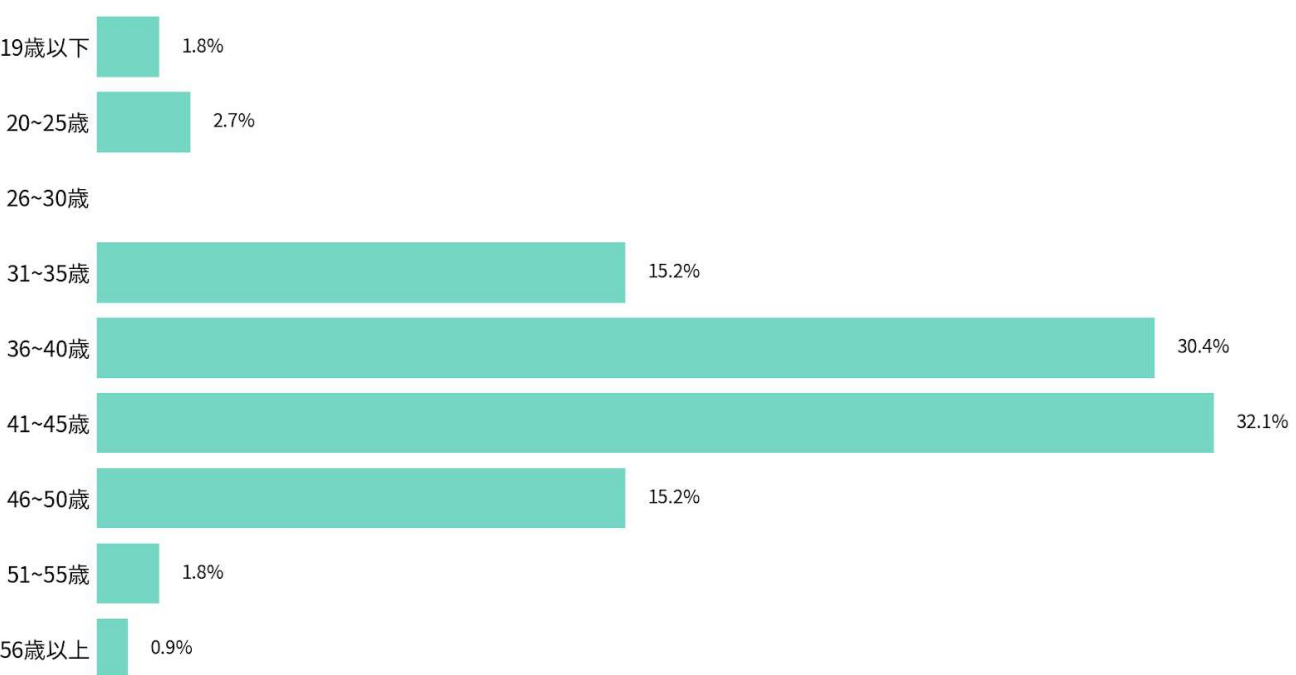


2. 性別



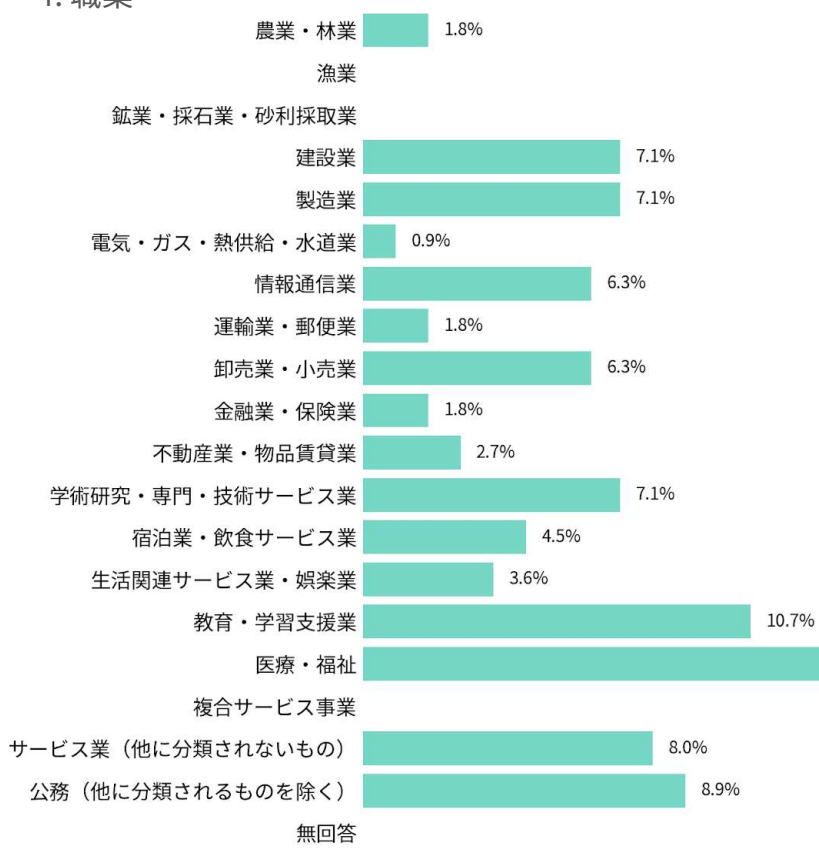
※本調査はキッズ・マナー・スクールごえん校のLINE登録者を対象に実施したものであり、当スクールの活動拠点等の背景により、回答者の居住地域には偏りがあります。

3. 年代

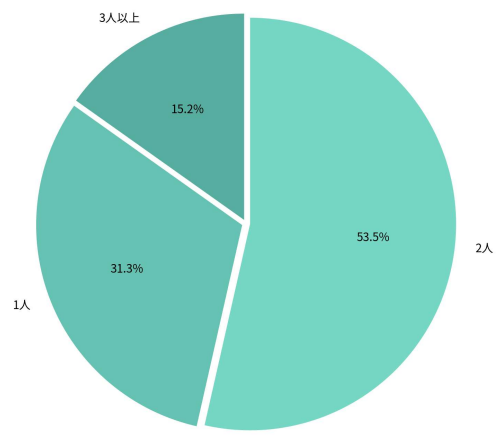


回答者属性

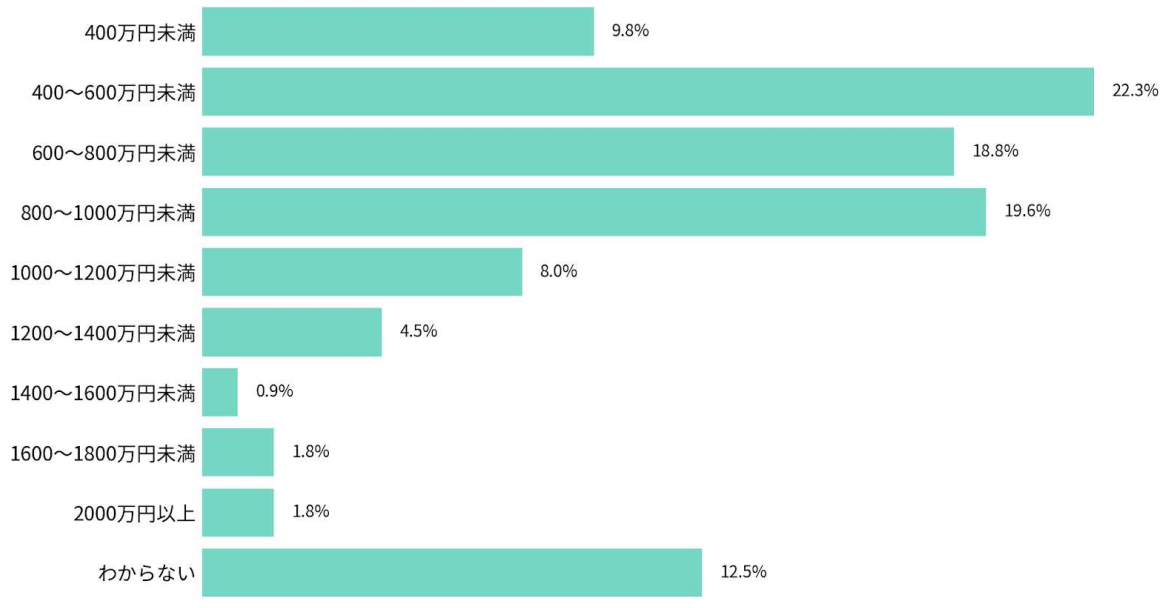
4. 職業



5. 世帯内の子ども人数



6. 世帯年収



習い事の実施状況と 意識調査



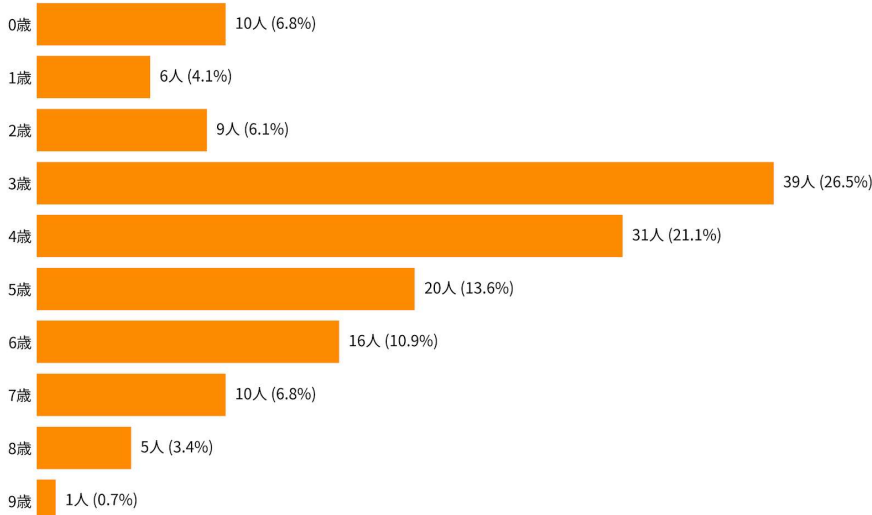
LESSONS

習い事の実施状況と意識調査

習い事の開始時期

習い事の開始時期は3歳から5歳にかけて大きなピークがあり、全体の約5割以上がこのタイミングでスタートしています。多くのご家庭が就学前の段階から習い事を取り入れています。

Q. 習い事はいつから始めましたか？※知育教室・ベビー英語なども含む



習い事の掛け持ち数

習い事の数4歳から急増し、8～9歳でピークを迎えます。この時期は約9割が複数の活動を掛け持ちし、多様な体験を重ねる傾向があります。一方、中高学年以降は習い事数は減少します。

Q. 現在、どのような習い事をしていますか？（複数選択可）

	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個
0歳	8	0	0	0	0	0	0	0
1歳	10	0	1	0	0	0	0	0
2歳	9	3	0	0	0	0	0	0
3歳	12	6	2	0	0	0	0	0
4歳	3	3	6	1	2	0	0	0
5歳	10	11	7	6	1	2	0	0
6歳	3	9	6	5	5	1	0	0
7歳	3	9	5	9	2	0	0	0
8歳	0	2	10	3	0	0	1	1
9歳	0	0	2	2	1	2	0	0
10歳	0	3	2	0	0	0	0	0
11歳	0	1	1	1	0	0	0	0
12歳	0	1	1	0	0	0	0	0

LESSONS

習い事の実施状況と意識調査

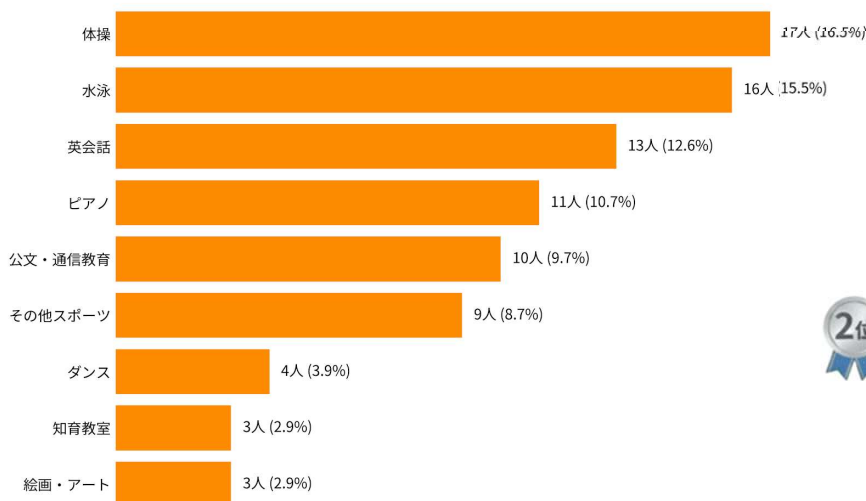
習い事の種別

未就学児では「体操」が最多、「水泳」「英会話」「ピアノ」がそれに続き、基礎体力の向上や感性を育む土台作りが重視されていることが分かります。

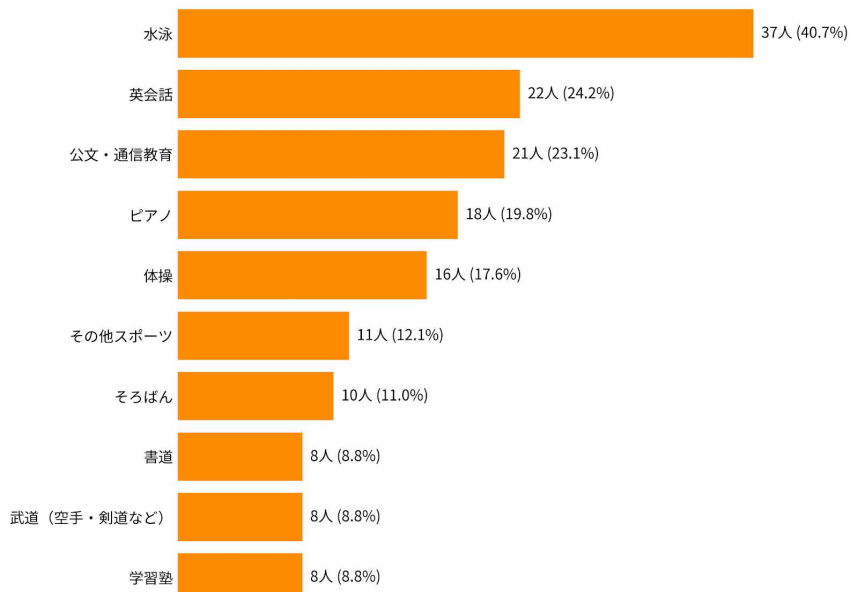
対して小学生では「水泳」が最多となり、3割弱が「公文・通信教育」「学習塾」などの学習系の習い事に取り組んでいることが分かります。さらに選択肢は「体操」や「武道」「書道」等へ多様化し、個々の適性に合わせた実践的なスキル習得が活発化している様子がうかがえます。

Q. 現在、どのような習い事をしていますか？（複数選択可）

【未就学児（0～5歳）】



【小学生（6～12歳）】



LESSONS

習い事の実施状況と意識調査

習い事の費用

2歳までは月1万円未満が中心ですが、3歳から家庭ごとの差が広がり始めます。全体的に成長に伴い高額化する傾向にあり、9歳時点では月に2万円以上を習い事にかける層も目立ちます。

Q.習い事に月いくらかけていますか？（子ども1人あたりの金額）

	3,000円未満	3,000円～5,000円未満	5,000円～10,000円未満	10,000円～15,000円未満	15,000円～20,000円未満	20,000円～30,000円未満	30,000円以上	回答数
0歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
1歳	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
2歳	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3
3歳	0.0%	28.6%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	7
4歳	8.3%	8.3%	25.0%	25.0%	16.7%	16.7%	0.0%	12
5歳	3.7%	18.5%	25.9%	25.9%	7.4%	11.1%	7.4%	27
6歳	3.8%	3.8%	23.1%	23.1%	15.4%	11.5%	19.2%	26
7歳	4.2%	8.3%	29.2%	12.5%	25.0%	16.7%	4.2%	24
8歳	5.9%	0.0%	35.3%	29.4%	17.6%	5.9%	5.9%	17
9歳	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	0.0%	42.9%	14.3%	7
10歳	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	5
11歳	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3
12歳	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2

※「習い事をしている」と回答した人の「習い事にかけている費用」を調査



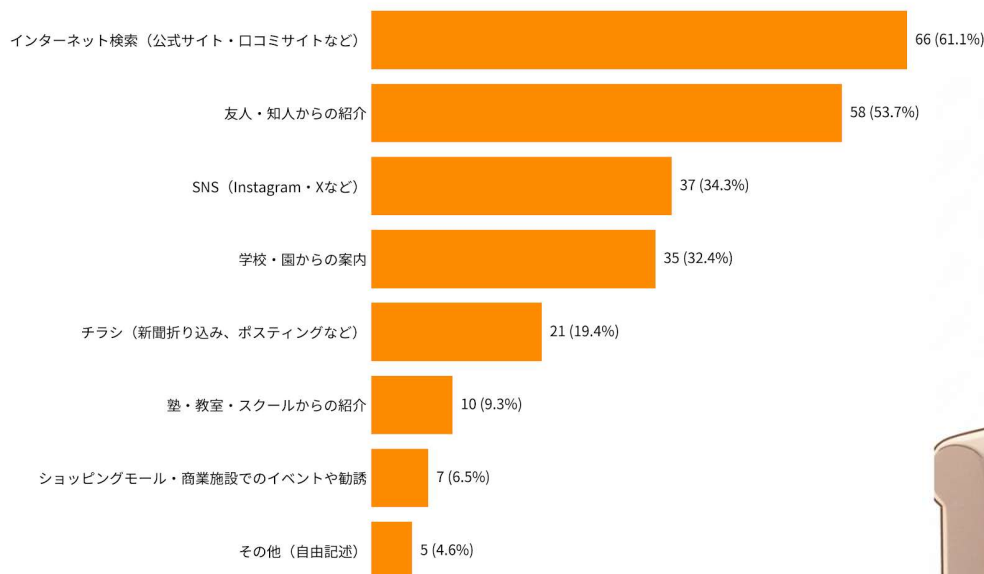
LESSONS

習い事の実施状況と意識調査

習い事の認知経路

「インターネット検索が」61.1%で最多となり、「友人・知人」の紹介も53.7%と半数を超えています。これに「SNS」「学校・園からの案内」が続き、デジタル媒体と教育機関経由が認知の主軸を占めます。

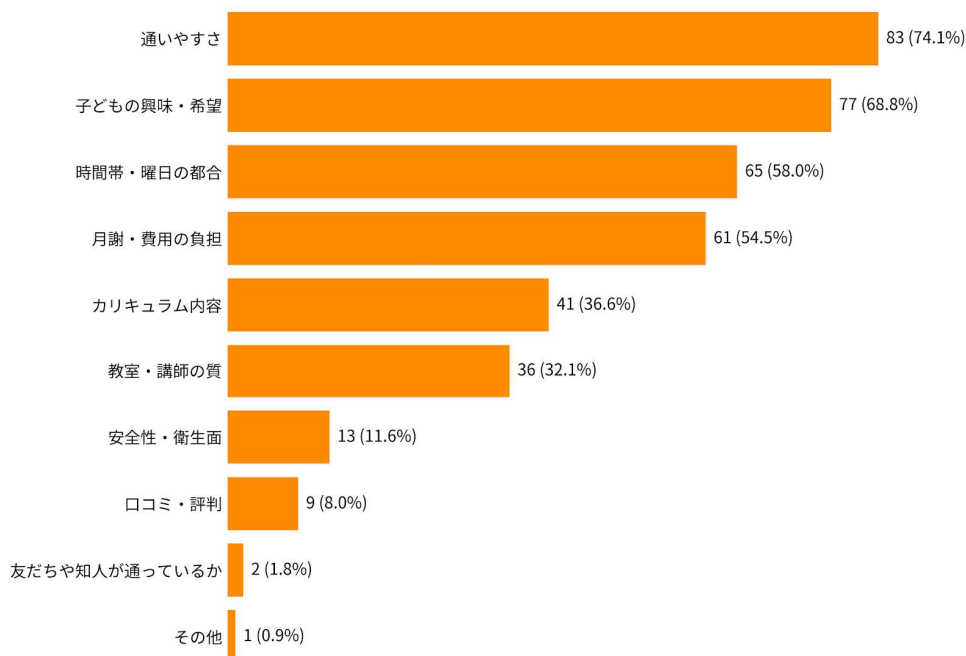
Q.習い事の情報は主にどこから得ていますか？（複数回答可）



習い事選びの重視ポイント

「通いやすさ」や「子どもの興味・希望」を8割近くの保護者が重視する一方、「内容」や「講師の質」を重視する回答は4割台に留まりました。日常生活における継続のしやすさが優先される実態が伺えます。

Q.習い事を選ぶ際に重視しているポイントは何ですか？（複数回答可）



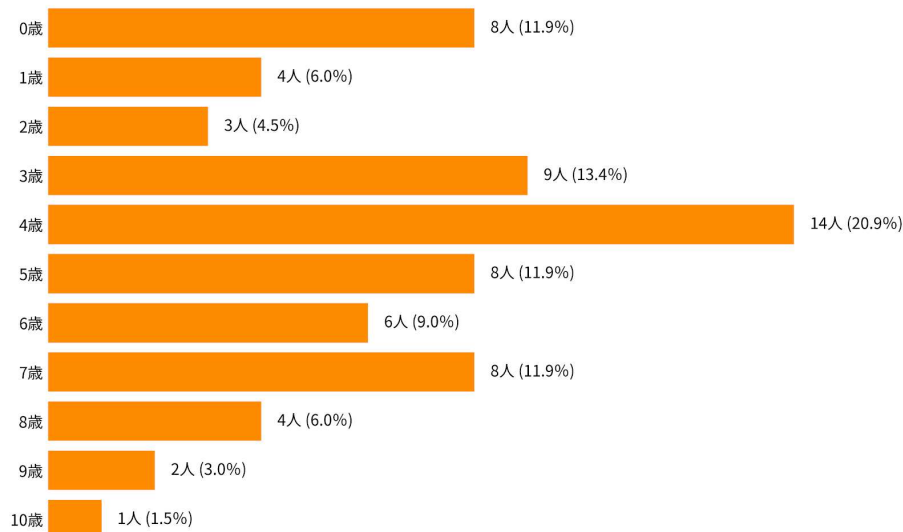
学習塾の利用状況と 意識調査



通塾開始時期

開始年齢のピークは4歳、次いで3歳です。0～2歳の早期開始層を含め、小学校入学前に教育をスタートさせる家庭は全体の7割に達しました。就学前からの早期着手が主流となっている様子がうかがえます。

Q. 塾はいつから始めましたか？※知育教室・ベビー英語なども含む



塾の指導形態

5歳までは「オンライン授業・通信教育」形式も選ばれますが、4歳からは「集団指導」形式が急増。また、7歳以降は「個別指導」形式が増えていき、9歳では「個別指導」形式が最多となります。低学年の集団学習から、高学年に向けた個別指導へのシフトなど、成長に応じたスタイルの移行が鮮明に表れています。

Q. 現在通っている塾の指導形態はどれにあたりますか？

	オンライン授業・通信教育	集団指導 (クラス形式)	個別指導 (1対1/少人数)	回答数
0歳	25.0%	25.0%	0.0%	4
1歳	0.0%	33.3%	0.0%	3
2歳	0.0%	50.0%	0.0%	2
3歳	20.0%	40.0%	0.0%	5
4歳	14.3%	71.4%	14.3%	7
5歳	12.5%	50.0%	12.5%	8
6歳	7.1%	64.3%	14.3%	14
7歳	6.7%	53.3%	33.3%	15
8歳	0.0%	70.0%	0.0%	10
9歳	20.0%	0.0%	40.0%	5
10歳	0.0%	100.0%	0.0%	2
11歳	0.0%	50.0%	50.0%	2

通塾目的

低年齢層は将来の成長を見据えた能力開発を重視される傾向にありますが、就学や進級を機に学力向上などの学校対策が主目的に変化します。受験準備は10歳頃から意識され始め、成長に伴い長期的な育成から具体的な成績対策へと目的がシフト。年齢に応じた教育への期待の変遷が読み取れます。

Q.塾に通っている主な目的として、最も近いものを教えてください。

	思考力・学習習慣など 将来の成長を見据えた 能力開発	基礎学力や成績の向上など 学校生活への対応	特定の受験合格や 進学準備など 進路目標の達成	回答数
0歳	75.0%	25.0%	0.0%	4
1歳	50.0%	50.0%	0.0%	4
2歳	50.0%	50.0%	0.0%	2
3歳	16.7%	66.7%	16.7%	6
4歳	71.4%	28.6%	0.0%	7
5歳	37.5%	62.5%	0.0%	8
6歳	50.0%	50.0%	0.0%	14
7歳	73.3%	26.7%	0.0%	15
8歳	40.0%	60.0%	0.0%	10
9歳	0.0%	100.0%	0.0%	5
10歳	50.0%	0.0%	50.0%	2
11歳	0.0%	100.0%	0.0%	2



学習塾の利用状況と意識調査

塾の費用

通塾費用は4歳～9歳の多くで「5,000～10,000円未満」が最多層であり、8歳（55.6%）や9歳（60.0%）で顕著です。一方で「20,000円～30,000円未満」の回答もあり、家庭によっては高額帯の支出が発生しています。

Q.塾に月いくらかけていますか？

	3,000円未満	3,000円～5,000円未満	5,000円～10,000円未満	10,000円～15,000円未満	15,000円～20,000円未満	20,000円～30,000円未満	30,000円以上	回答数
3歳	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4
4歳	14.3%	28.6%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	7
5歳	0.0%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	8
6歳	7.1%	14.3%	21.4%	21.4%	28.6%	0.0%	0.0%	14
7歳	0.0%	26.7%	33.3%	13.3%	6.7%	6.7%	0.0%	15
8歳	0.0%	22.2%	55.6%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	9
9歳	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	5
10歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	2
11歳	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2

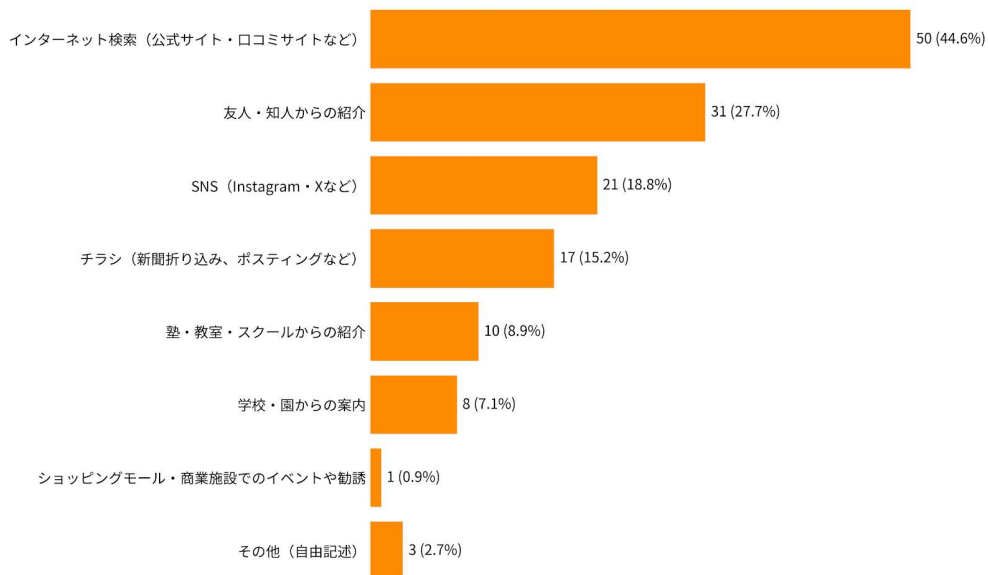
※「塾に通っている」と回答した人の「塾にかけている費用」を調査
※0歳、1歳、2歳、12歳はサンプルが少ないため表から除外

学習塾の利用状況と意識調査

学習塾の認知経路

習い事の認知経路と同様に、「インターネット検索」が最多、次いで「友人・知人」「SNS」と続く結果になりました。

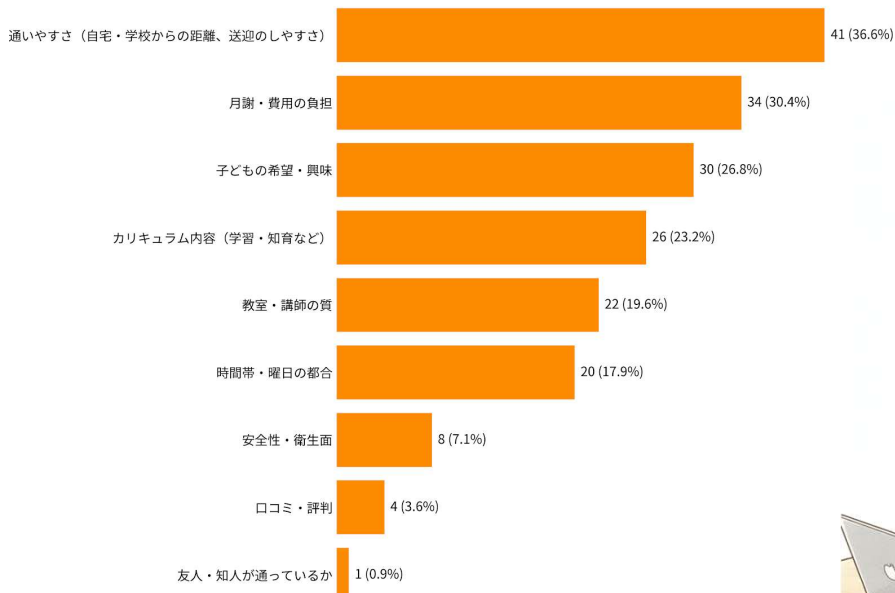
Q.学習塾の情報は主にどこから得ていますか？（複数回答可）



学習塾選びの重視ポイント

塾選びは、習い事と比較し、決定的な重視ポイントが分散していることが特徴です。習い事では7割以上が「通いやすさ」を重視するのに対し、塾では同項目が最多ながら36.6%に留まります。

Q.塾を選ぶ際に重視しているポイントは何ですか？（複数回答可）



教育費に対する 意識と準備状況



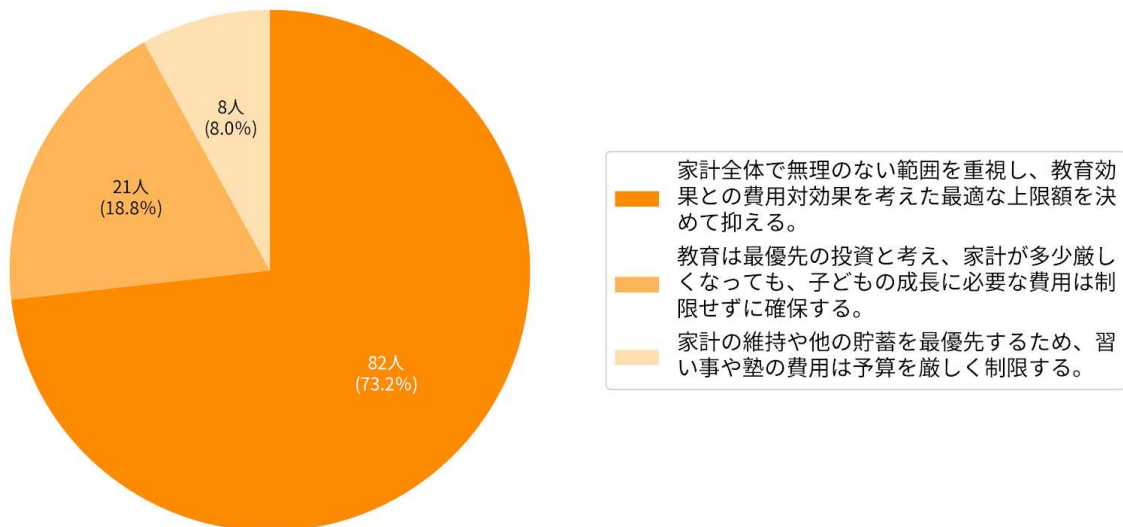
EDUCATION COSTS

教育費に対する意識と準備状況

教育費と家計のバランス

教育費は「家計の範囲内で費用対効果を重視」する層が73.2%と最多となりました。多くの家庭で家計との調和を図りながら、教育効果に見合う投資を慎重に判断していることがうかがえます。

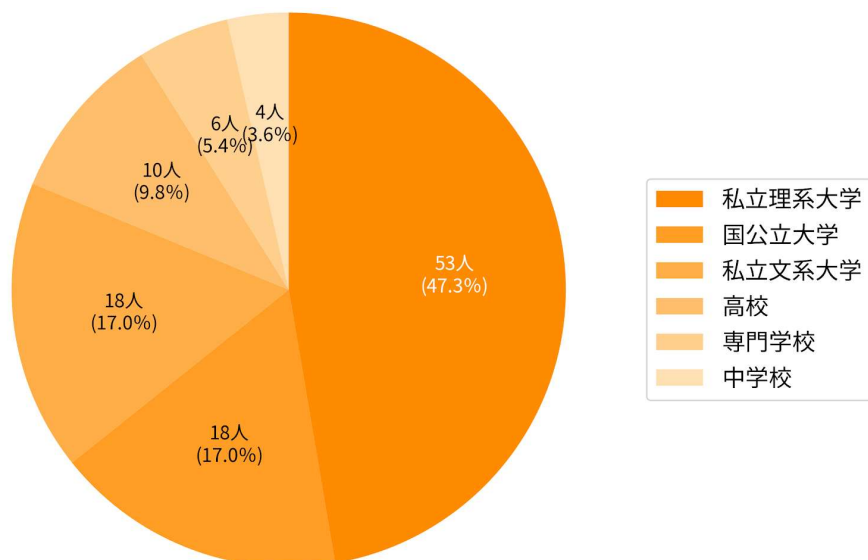
Q. 習い事や塾にける費用と、ご家庭の家計全体とのバランスについて、考えに最も当てはまるものを教えてください。



子どもの想定進路

約半数近くの保護者（47.3%）が、学費や設備費が高くなる傾向のある「私立理系大学」を、最もお金がかかる進路として想定していると回答しました。

Q. お子様の進路について、現時点で最もお金がかかる進路として想定しているのはどこですか？

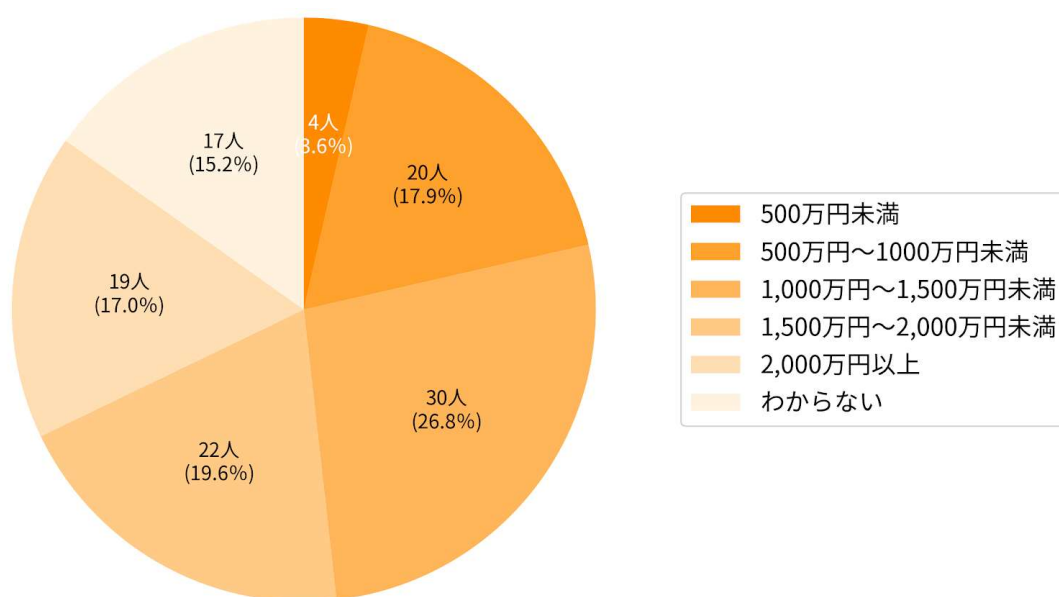


教育費に対する意識と準備状況

進路にかかる費用の想定額

一人あたりの教育費は「1,000万～1,500万円未満（26.8%）」が最多となり、1,000万円以上の出費を想定する層は合計63.4%に上りました。一方、「わからない」層も15.2%存在し、具体的な目標額の設定に悩む層が一定数いる実態も示されました。

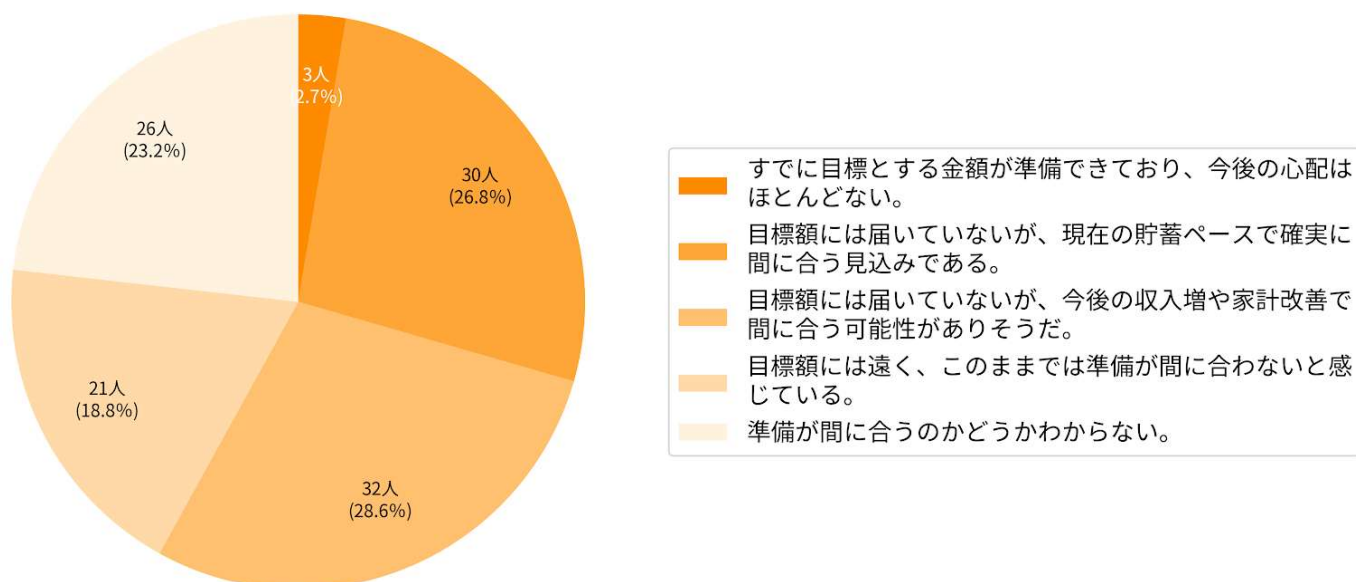
Q.お子さま一人の教育費として、最終的にいくら準備する必要があると考えていますか？



教育費の準備状況

教育費の準備は「未達だが改善で間に合う（28.6%）」が最多で、「現在の貯蓄で間に合う（26.8%）」と合わせ過半数が前向きな見通しです。一方、不安・危機感を持つ層も計42.0%存在します。「準備完了」は2.7%に留まり、大半が準備の途上にある実態が浮き彫りとなりました。

Q.現時点での教育費の準備状況について、最も当てはまるものを選んでください。



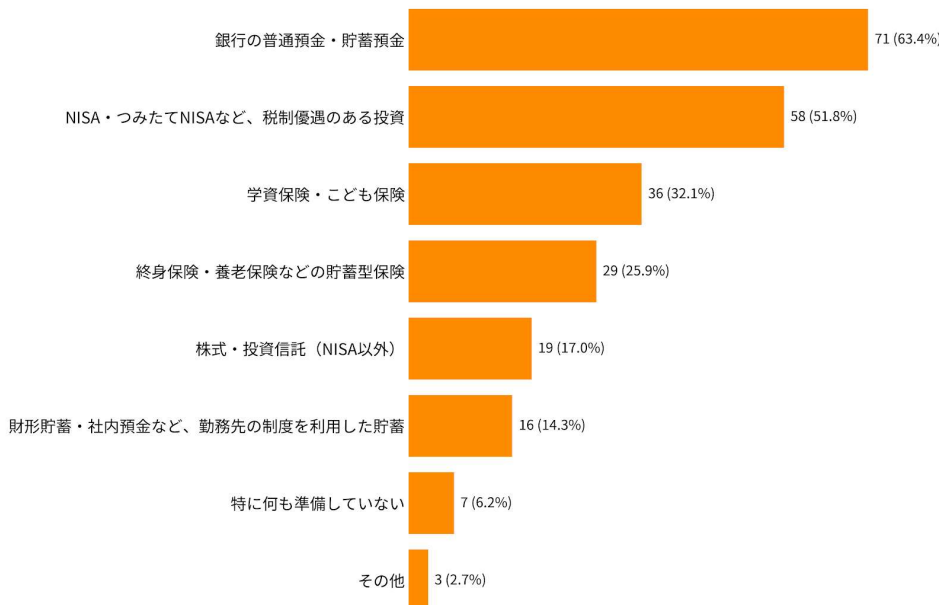
EDUCATION COSTS

教育費に対する意識と準備状況

教育費の具体的な準備方法

「銀行預金（63.4%）」が最多、「NISA（51.8%）」が続き二大手法となっており、過半数がこれらの手法で教育費の準備をしていることが明らかとなりました。その他の手法として保険活用も根強い一方で、「特に何も準備していない」層も6.2%存在しています。

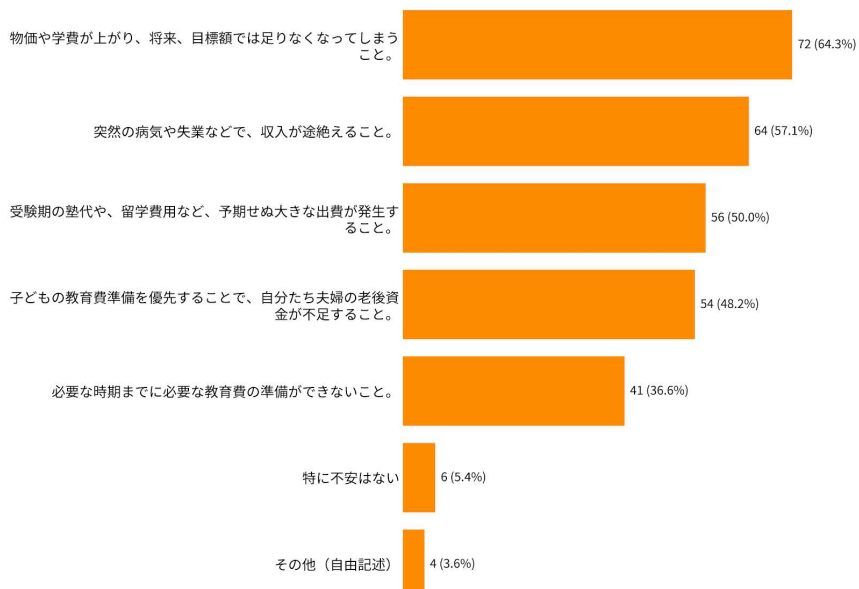
Q.現在行っている教育費の主な準備方法を全て選んでください（複数回答可）



教育費準備における不安要素

教育費の不安は「物価・学費高騰（64.3%）」が最多で、「収入途絶（57.1%）」や「予期せぬ大出費（50.0%）」が続きます。「老後資金の不足（48.2%）」への懸念も強く、将来の不確実性と自らの生活設計の両立に苦慮する保護者の実態が浮き彫りとなりました。

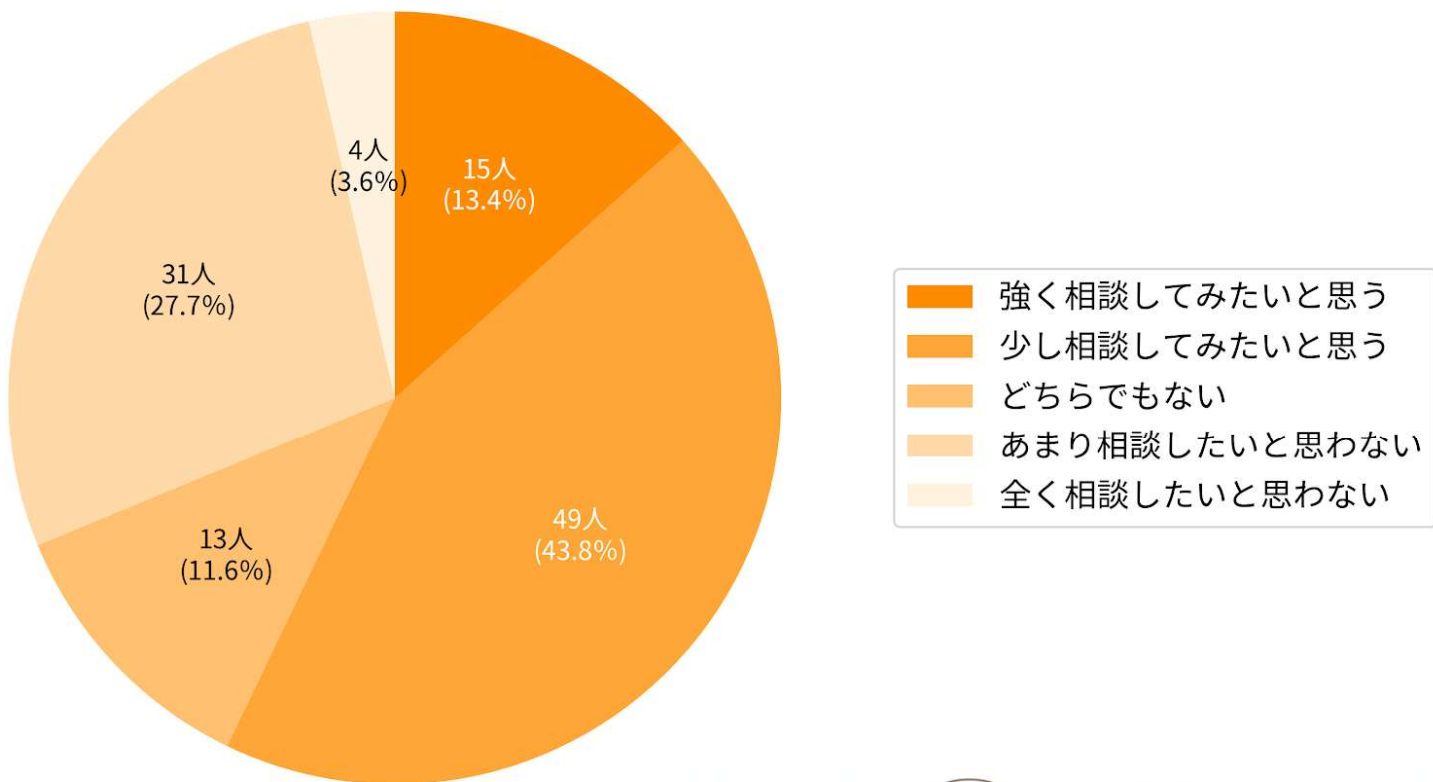
Q.教育費の準備において、不安に感じていることをすべて教えてください（複数回答可）



専門家への相談意向

過半数（57.2%）が「相談してみたい」と回答。教育費の準備をはじめとする家計管理や資産形成について、多くの人が何らかの不安や課題を抱えており、プロの意見を求めている状況が浮き彫りとなりました。一方で、全体の3割は相談に消極的。自分で情報を収集・管理できているか、あるいは専門家への相談に費用や手間がかかるなどの心理的なハードルを感じている可能性がみてとれます。

Q.家計管理や資産形成について、専門家に相談してみたいと思ったことはありますか？



「子どもの習い事・塾に関する実態調査 ～2025年12月 トレンドレポート～」を最後までお読みいただきありがとうございました。

2022年4月から高校家庭科で「資産形成」の内容が必修化されるなど、国全体で金融教育への関心が高まっています。私たちキッズ・マネー・スクールごえん校も、長年にわたり全国各地で親子向けの金銭教育スクールを開催し、お金を通じて「感謝する心」や「生きる力」を育む活動を続けてまいりました。

今回の調査を通じて、多くの保護者の皆様が、物価高や将来への不安を抱えながらも、「子どもの可能性を最大限に広げてあげたい」という強い願いを持っていることが改めて浮き彫りになりました。

アンケートからは、習い事や塾の費用負担に悩みつつも、お子さまの「やりたい」という意欲を優先し、NISAなどの新たな制度を活用しながら懸命に資金準備に取り組む、現代の保護者のリアルな姿が伝わってきました。

キッズ・マネースクールでは、スクールを通して「お金はありがとうとの交換」であると伝えています。お金とは、単なるモノやサービスの対価ではなく、誰かに感謝された証。この本質を理解し、正しく付き合うための知識こそが、子どもたちが自立的に、そして安心して人生を歩んでいくために欠かせないものになると考えています。

AIの進化や働き方の多様化、人生100年時代の到来など、これからも社会は激しく変化し続けることが予測されます。そのような時代だからこそ、親子で正しい金融リテラシーを身につけ、経済的な不安に縛られることなく、家族全員がウェルビーイングな生活を送れる土台づくりが必要です。

私たちはこれからも、調査から見えた「家庭の願い」と「現実の課題」に寄り添い、子どもたちと、子育て世代の保護者様が、楽しく学べる金融教育の場を提供し続けてまいります。

2026年1月
キッズ・マネー・スクールごえん校

～本件に関するメディア関係者のお問合せ～

キッズ・マネー・スクールごえん校（GOEN株式会社）

Email : info-goenkou@goen-group.jp

TEL : 050-1721-0840